

江差の農業

概況

町内の農家数は、平成 27 年度農林業センサスでは 110 戸、令和元年度経営所得安定対策に参加している農家数は 100 戸となっており、減少しています。

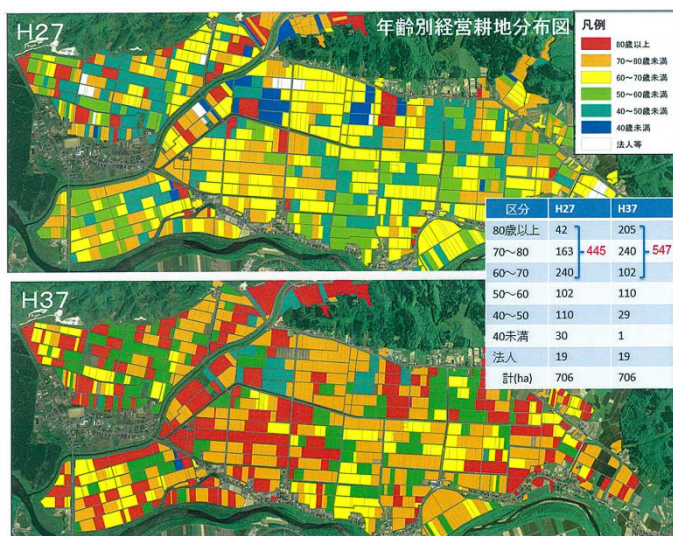
経営面積は 730ha（令和元年）で、平成 27 年と比較すると 50ha 減少しています。理由は、町外の農業者の作付が増えたことによります。転作率は約 62%と変化はありません。

J A の町内農畜産物販売額は、平成 28 年 616 百万円・平成 29 年 613 百万円でしたが、平成 30 年は天候不順の影響により 463 百万円と大きく生産額が減りました。

振興作物であるアスパラガスは、作付面積は微増、生産額は平成 28 年・平成 29 年 62 百万円でしたが、平成 30 年は市況単価が低いことが影響し、59 百万円と下回りました。

同じく振興作物であるブロッコリーは、作付面積に変化はなく、生産額は平成 28 年 58 百万円、平成 29 年 52 百万円でしたが、平成 30 年は天候不順の影響により 42 百万円と大きく生産額が減りました。

農業農村整備事業では、令和 3 年度から基盤整備着工に向け計画策定を進めており、担い手が営農しやすい大区画化・利用集積と用排水路の整備を行います。また、水堀排水機場の機能診断・計画策定を実施し、長寿命化に向けた維持補修を行います。

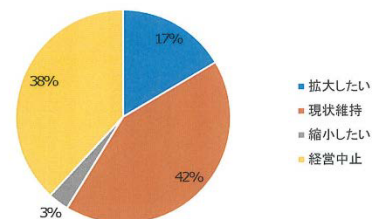


将来の営農構想について

問 9 あなた（または後継者の方）の農業経営について、将来（おおむね10年後）の目指す姿についてお答えください。

① 経営規模について

「経営中止」が38%、「現状維持」が42%、「拡大したい」が17%であった。



【出典：平成 28 年度実施計画江差地区設計業務報告書】

成果のあった施策の紹介

●農業機械購入費用助成

平成 27 年度より「江差町まち・ひと・仕事創生総合戦略」により、農産物の品質及び生産性の向上並びに農作業の省力化・効率化に必要な農業機械を対象に、1/2 補助及び上限 50 万円とし 1 農業者 1 回まで助成。

年度	H27	H28	H29	H30
件数	14	16	16	6
決算額(単位:千円)	4,014	7,132	6,346	2,250

成果のあった施策の紹介（つづき）

●農業共済掛金助成事業

平成 27 年度より「江差町まち・ひと・仕事創生総合戦略」により、持続可能な農業経営に資することを目的とし、農作物共済・畑作物共済。施設園芸共済のほか平成 30 年度からは畜産も対象としており、掛金の 2/10 の助成を行っている。

年度	H27	H28	H29	H30
件数	76	70	70	74
決算額（単位：千円）	1,568	1,453	1,392	1,753

●農業体質基盤強化基盤整備（暗渠排水整備）

経営規模の拡大や農作物の高付加価値化・品質向上等に取り組む上で支障となっている農地の排水不良を解消するため、水田輪作体系の取組範囲で暗渠排水整備を実施。

年度	H24	H25	H26
整備面積（ha）	43.2	19.4	20.8
対象者（人）	23	9	12
決算額（単位：千円）	75,731	30,192	43,182

実施したが、成果があまりなかった施策

●農業体験型等市民農園の開設

収穫作業を通じ、自然に触れ合い収穫のよろこびを感じ、健康づくりや家族のふれあいの場、余暇活動の場として多くの方々に「農業」や「食」への関心と理解を深めるため実施。

⇒町広報折込チラシでの周知のほか、食育の観点からも学校や保育園の参加を呼び掛けましたが、参加者の増加にはつながりませんでした。

●アスパラガス伏込栽培の事業化

アスパラガスを通年、生産できる体制を構築し、産地として収益力を向上させ農家の所得増加につなげるとともに、地域ブランドとしての認知度を一層高めるため、実証試験事業に取り組む。

⇒他の農作業とアスパラガスの伏込栽培の作業時期が重なること、ハウスの購入費用やハウスの加温に費用がかかること、所得向上よりも体を休める休息期間が欲しいといった声もあり、研修会の立ち上げには至りませんでした。



【農業体験型等市民農園】



【アスパラガス伏込栽培】

今後取り組む施策等について

●江差北部地域農業生産基盤整備の推進

①水堀地区基盤整備（農業競争力強化農地整備事業、水堀地区）

用水路 18,564m、区画整理 82ha

施工：令和3年～11年度 ※江差北部地区を5地区に分け、基盤整備を実施

②排水路の改修（水利施設等保全高度化事業、泊地区）

中央排水路約560mの改修

施工：令和3～5年度

●スマート農業の推進

今後施工する基盤整備では、担い手の農業経営の拡大、農地の集積がカギとなります。

近隣町においても、農機の自動操縦やドローンによる農薬散布等やICT（情報通信技術）により栽培管理を行うなど、スマート農業が取り組まれています。これら農作業の省力化により経営規模の拡大や作業時間の軽減等が図られます。

スマート農業化への課題を整理し、農業者のニーズ、国や北海道の補助事業と合わせた補助事業の展開を検討しながら政策の決定を行っていきます。

●大雨等の災害に強い環境づくり

「農業用ため池の管理及び保全に関する法律（通称：ため池法）」が令和元年7月1日に施行され、江差町内では5つの農業用ため池が防災重点ため池として指定されました。

鯉川ダム

逆川貯水池

下小黒部貯水池

沢田ため池

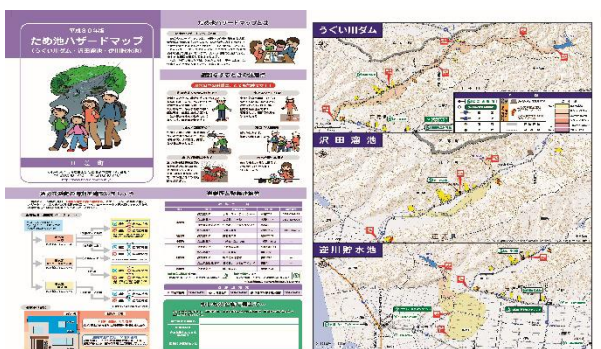
井ノ口沢ため池

大雨等により農業用ため池が決壊すると、下流の人家・農業に甚大な被害をもたらし、昨今の全国的な大雨被害においても農業用ため池の決壊により尊い命が奪われた事例もありました。

町内すべての防災重点ため池を網羅した「ため池ハザードマップ」を平成29・30年度に作成し、住民の皆様へ配布したところであります。

今後は北海道と連携しながら耐震性点検等を必要に応じて検討・実施していきます。

また、湛水防除機能がある水堀排水機場の計画的な維持補修と、江差北部地区農業生産基盤整備にて実施する用排水路の改修も実施し、災害に強い環境づくりを行っていきます。



【農業用ため池ハザードマップ】



【無人田植え機】